

2014年 社長(一色 誠一)年頭挨拶について

記者各位

明けましておめでとうございます。

本日用われた、当社社長 一色 誠一のグループ社員に向けた年頭挨拶を、以下の通りお知らせいたします。

<要旨>

1. 社会情勢

日本経済は、「アベノミクス」効果により、ようやく「失われた20年」と呼ばれる景気後退局面から脱却する足がかりを得つつある。昨年末、「産業競争力強化法」が可決されたが、今後は、アベノミクスの「第3の矢」といわれる「成長戦略」の具体化が日本経済の浮揚の鍵を握っている。

国際的には、現在「TPP」合意に向けて厳しい交渉が続けられているが、世界の「人、モノ、カネ」は、自由化、ボーダレス化の方向に動いており、私たちが自由市場で勝ち残っていくためには、世界に伍して勝負できるだけの強靱な事業基盤が必要になる。

また、2020年の東京オリンピック開催決定という明るいニュースは、経済効果や国民の一体感を醸成する効果はもちろんのこと、震災で深い傷を負った日本の復興を象徴するものとして、私たちに大きな活力を与えてくれるものと期待している。

2. 事業環境と第2次中期経営計画の進捗

国内では燃料油需要の中長期的な減少傾向が続いているが、4月の消費税率引き上げにより、ガソリン価格が更に上昇することから、内需の減少に一層の拍車がかかるのではないかと懸念している。

一方、去る12月、新たな「エネルギー基本計画」の素案が示され、「石油」、「天然ガス」、「再生可能エネルギー」など、多様なエネルギーによる最適なエネルギーミックスを追求していくことが掲げられた。

当社は、石油業界の自由化という激しい事業環境の変化の中で、いち早く、「総合エネルギー企業」を目指し、事業の再構築を図ってきた。今後も、総合エネルギー企業として当社が負うべき社会的責任と、社会から寄せられる期待の大きさをしっかりと自覚し、強固な事業基盤を築いていかなければならない。

市況低迷の影響により、当社の収益環境は厳しい状況にあるが、各部門においては、2次中計で掲げた戦略をブレイクダウンした具体的な事業計画の達成に向け、一層の奮闘をお願いする。

3. 本年の重点課題

まずは、これまで同様、「利益よりも安全とコンプライアンスを優先する」という姿勢を徹底するとともに、「三現(現場、現物、現状)主義」を実践して欲しい。

これらに加え、本年は、「共に歴史を作ろう」という「思い」を共有したい。「歴史を作る」ためには、「挑戦」が必要である。そして、目まぐるしい事業環境の変化に迅速に適応し、最大のリターンを享受していくため、企業そのものが「自己変革しやすい」風土を持たねばならない。その第一歩として、社員一人ひとりの意識改革をお願いする。

さらに本年は、「ENEOSブランドの再構築」にも邁進したい。ブランドの土台となる「安定供給」、「品質」を維持・強化するとともに、「ENEOS」ブランドを通じて、私たちにしか提供できないもの、すなわち「当社の存在価値」をお客様に伝えるべく努力していきたい。

中計2年目となる今年の干支は「午」である。室蘭製油所が石化工場として、また韓国のウルサンでもパラキシレン製造装置が稼働を開始する。ここで健脚を發揮し、勝ち馬としてゴールできるよう、ともに全力で走っていきたい。

以上